

意思疎通の現状と課題について

岡田委員

発達障害児・者の場合は、障害特性が一人一人違い意思疎通に全く不自由を感じない人から、言語を使うことが苦手でもその人なりの手段で自分の意思を伝える人、人に伝えようとする事自体が苦手な人まで様々です。

言葉を使って意思表示をすることが難しい人たちは、意思疎通を図る前に、まず、その人とコミュニケーションを図る必要があると思います。身振りや表情、行動など言葉ではないものから、実物、絵カード、文字、コミュニケーションカードやスケジュールなど、その人の分かる方法でやり取りして、意思疎通支援をし、その後、意思決定支援を図るのが良いと思います。

voca, iPad, スマートフォン等を使ってコミュニケーションや意思疎通、意思表示も出来るようになってきた人もいます。

現状は言葉を使つての意思表示が難しい人たちは、家族、支援者が分かる範囲で、又は推測して本人の意思？を代理しているのではないかと思います。

今後、全てのライフステージにおいて支援者、家族の理解を深めて本人の意思疎通を図るために、愛知県条例に障害特性に必要な多様なコミュニケーション支援を加えていただくとともに、支援者の理解を進める必要が有ると思います。

・特別支援教育課への質問

昨年から県下の特別支援学校でiPadの試験的な使用が始まったと聞きました。どの様な使い方をしているのか教えていただきたいと思います。

よろしく願いいたします。